



【本件リリース先】

文部科学記者会、科学記者会、
広島大学関係報道機関

広島大学広報グループ

〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2

TEL : 082-424-3749

FAX : 082-424-6040

E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

NEWS RELEASE

令和3年2月12日

若者世代は本当に SDGs 世代か？
SDGs に関連するライフスタイルにおける世代効果や
若者の就職際の会社選びを分析

【本研究成果のポイント】

- 若者世代(18-30 歳)は上の世代よりも社会や会社に SDGs に積極的に取り組むことを期待する。
- 若者は低い所得でも SDGs に積極的に取り組み企業で働くことを選好する。
- 若者世代は SDGs 世代として SDGs の達成に導く世代となりえる。

【概要】

広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点山根友美研究員、金子慎治拠点長・大学院人間社会科学研究科教授・副学長（グローバル化推進担当）は、若者世代は SDGs 世代かを検証するために、2つのインターネット調査を実施しました。日本全国規模の調査のデータを使って SDGs に関連するライフスタイルにおける世代効果を分析した結果、若者世代(18-30 歳)は上の世代よりも社会や会社に SDGs に積極的に取り組むことを期待することや SDGs に配慮した消費行動をすることが確認されました。また、大学生の就職の際の会社選びにおける選好を分析した結果、推定年収が低くても SDGs へ積極的な取り組みを行っている企業を選好することが確認されました。このことから、若者世代は SDGs をより推進する世代になりえることが示唆されました。これは企業が優秀な人材を獲得するためには SDGs に積極的に取り組む必要があることを示唆します。

本研究成果は、2021 年 1 月 13 日に Journal of Cleaner Production に掲載されました。

掲載誌：Journal of Cleaner Production

論文タイトル：Is the Younger Generation a Driving Force Toward Achieving the Sustainable Development Goals? Survey Experiments

著者：山根友美 金子慎治

DOI: 10.1016/j.jclepro.2021.125932

【背景】

持続可能な開発目標（SDGs、エス・ディ・ジーズ）は、2015年に国連で採択された国際目標です。環境・社会・経済の諸問題を包括的に扱った17個の目標から構成され、2030年までに、先進国も途上国も、国も企業も個人も、みんなが協力し、誰一人として取り残さない持続可能な世界を実現することを目指しています。特に、若者世代（ミレニアル世代、Z世代）は、SDGs世代、SDGsネイティブと呼ばれることも多く、若者世代の積極的な関与が期待されます。一方で、学術的な研究はあまり行われておらず、SDGs実施の観点から世代効果を科学的に検証したものは見当たりません。

【研究成果の内容】

広島大学FE・SDGsネットワーク拠点山根友美研究員、金子慎治拠点長・教授は、若者世代は本当にSDGs世代かを検証するために、2つのインターネット調査で得たデータを分析しました。この2つの研究の結果、若者世代はSDGsをより推進する世代になりえることが示唆されました。つまり、このことは企業が優秀な人材を獲得するためにはSDGsに積極的に取り組む必要があることが示唆されます。

(1)SDGsに関連するライフスタイルに世代効果があるか

2019、2020年に日本人成人を対象に実施したインターネット調査のデータ(サンプル数：12,098、平均年齢：47歳、男性49.93%、女性50.07%)を使って、SDGsに関連するライフスタイル・価値観に世代効果があるかを検証しました。具体的には、SDGs実施に対する社会への期待度、仕事に関する価値観、サステナブルに配慮した行動に関する指標が、若者世代(18-30歳)が上の世代(31-75歳)より高いかを機械学習の手法を使って分析しました。結果は、多くの指標で若者世代が高いことが確認されました。一方で生きがいや社会貢献などの仕事に関する価値に関しては統計的に有意な効果は確認されませんでした。【参考資料1】

【参考資料1】

| SDGsに関連するライフスタイル指標 | 単純集計結果(平均値) | | 世代効果 |
|---|-------------------------|-------------------------|-----------------------|
| | 若者世代(18-30歳) n=2,127 | 上の世代(31-75歳) n=9,971 | 若者世代(18-30歳) の限界効果 |
| SDGs実施に対する社会への期待度 | | | |
| 「そう思う」を1、「どちらとも言えない」、「そう思わない」と0と集計。 | | | |
| a-1 自分が住んでいる自治体でも、積極的にSDGsに取り組んで欲しい | 52.60% | 49.40% | +++ |
| a-2 自分が勤めている会社・通っている学校でも、積極的にSDGsに取り組んで欲しい | 54.00% | 44.90% | +++ |
| a-3 将来、転居するとしたら、SDGsに積極的に取り組んでいる地域に住みたい | 37.30% | 34.20% | +++ |
| a-4 将来、就職(転職)するとしたら、SDGsに積極的に取り組んでいる企業・組織で働きたい | 40.10% | 38.10% | ++ |
| 仕事に関する価値観 | | | |
| 5段階で回答を求め、「そう思う」を4～「そう思わない」を0として集計。最大4、最小0。 | | | |
| b-1 仕事は生きがいにつながる | 2.478 | 2.631 | n.s. |
| b-2 仕事はお金を得るためのものだ | 3.115 | 2.913 | + |
| b-3 仕事の安定を考えて計画を立てる | 2.695 | 2.669 | +++ |
| b-4 仕事は社会貢献につながる | 2.771 | 2.847 | n.s. |
| サステナブルに配慮した行動 | | | |
| 次の項目に対して4段階で回答を求め、「よくする」を3～「まったくしない」を0として集計して平均値化。最大3、最小0。 | | | |
| c-1 国際協力・国際交流の活動に参加する; 地元でとれた食材を購入する; フェアトレードマークのある製品を消費する | | | |
| c-2 消費電力を減らす工夫をする; 買い物では食べきれぬ量だけ購入する; 訳あり商品を購入する; エアコンを冬は低め、夏は高めに設定する | | | |
| c-3～c-5については、「そう思う」を1、「どちらとも言えない」、「そう思わない」と0と集計。 | | | |
| c-1 グローバリゼーションに配慮した行動 | 1.089 | 1.145 | +++ |
| c-2 環境に配慮した行動 | 1.903 | 2.025 | --- |
| c-3 値段が高くて、持続可能な商品・サービスを購入する | 34.00% | 29.20% | ++ |
| c-4 商品サービスを選ぶ時に、企業の経営方針を気にする | 25.30% | 16.40% | n.s. |
| c-5 商品サービスを選ぶ時に、企業のSDGsの取り組みを気にする | 21.80% | 12.50% | +++ |

Yamane & Kaneko (2021)のTable 1及びFig.1を改変して著者が作成。

b-4, c-3,c-4,c-5については、2020年のみ調査したため、サンプル数は若者世代1,123、上の世代4,932。

世代効果については、Double machine learningを用いて推定。

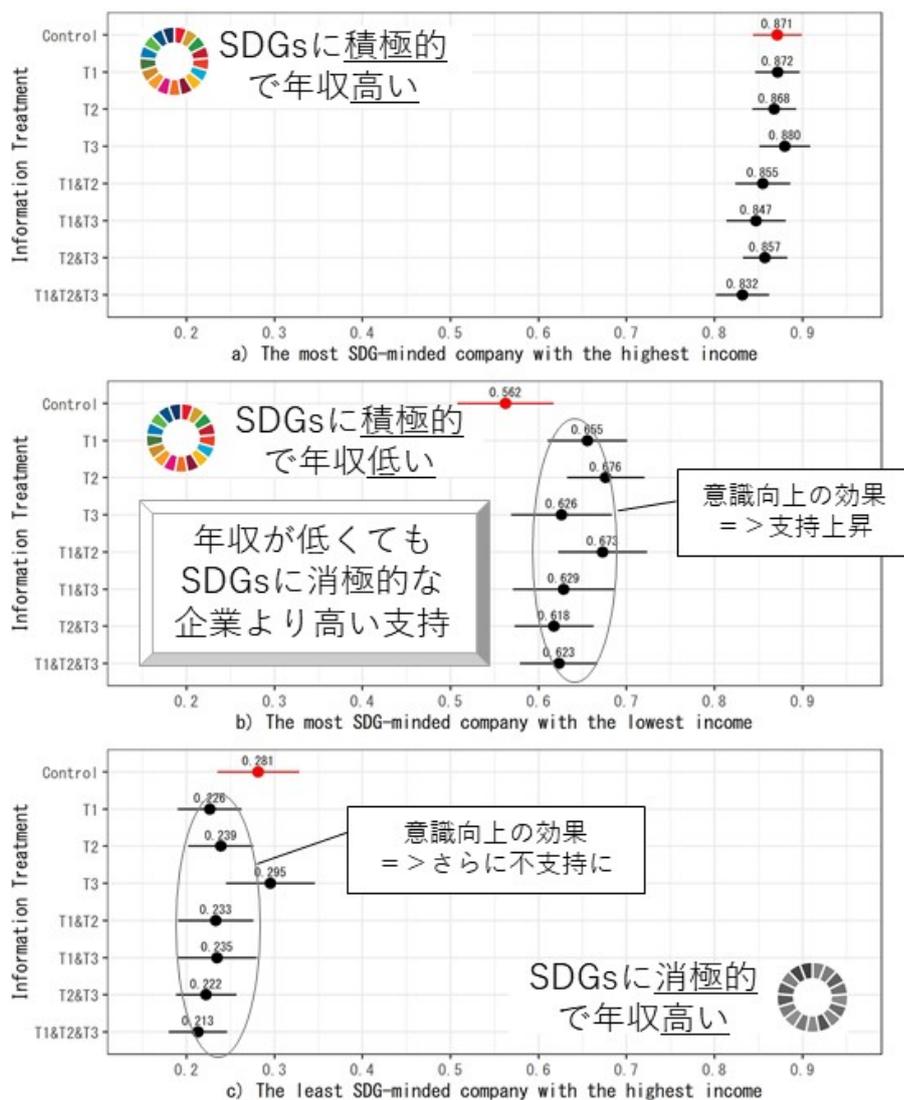
+は正に有意、-は負に有意ということを示す。符号の数は有意水準を示す。+++：1%;++：5%;+：10% n.s.: 統計的に有意でない。

(2) 大学生の就職に関する選好

就職の際の企業選びに、企業のSDGsへの取り組みは評価されるかを検証するために2020年に大学生(サンプル数:668)を対象にコンジョイントサーベイとランダム化比較試験(RCT)を組み合わせたオンライン調査を実施しました。その結果、SDGsに積極的に取り組む企業が支持されることが確認されました。また、SDGsを積極的に実施し、推定年収が高い企業が一番人気のある選択肢であることもわかりました。一方、推定年収が高くてもSDGsへの積極的な取り組みを行っていない企業の支持率は高くなく、逆に推定年収が低くてもSDGsへ積極的な取り組みを行っている企業を選好することが確認されました。また、被験者をSDGsの本質に関する情報を与えるグループ(トリートメント群)と与えないグループ(コントロール群)にランダムに割り当て、情報を与えることで、選好に影響があることを確認しました。SDGsに関する意識向上を図ることで、年収が低くてもSDGsへ積極的な取り組みを行っている企業へ

の支持が上がるようになりました。一方で、意識向上によって、推定年収が高い企業への支持が下がることが確認されました。【参考資料2】

【参考資料2】



Yamane&Kaneko(2021) Fig.3に加筆

【今後の展開】

本研究では多角的な観点から若者世代が SDGs の達成に導く世代となりえるという貴重なエビデンスを示すことができました。推定年収が低くても SDGs へ積極的な取り組みを行っている企業を選好することが確認できたことは社会的な意義があります。一方で、SDGs に関するライフスタイル間の関連性を示すことが出来ませんでした。今後検証を進める予定です。

【お問い合わせ先】

広島大学FE・SDGsネットワーク拠点(NERPS、ナープス)
 研究員 山根友美
 Tel: 082-424-7640
 E-mail: tomomi@hiroshima-u.ac.jp
 発信枚数: A4版 4枚(本票含む)